

平成29年度 「市長と語る市政懇談会」記録



幡豆地区

平成29年8月29日（火） 午後6時30分から

幡豆いきいきセンター〔つつじホール〕

市政懇談会次第

- 1 開会
- 2 市政運営について（市長）
- 3 地区とりまとめ意見・質問等の回答
- 4 自由意見交換
- 5 閉会

出席者等

懇談会の地区代表者	東幡豆小校区：小嶋隆正代表町内会長
校区代表町内会長	幡豆小校区：牧野昇司代表町内会長
地区関係市議会議員	鈴木武広議長、永山英人議員、渡辺信行議員、大塚久美子議員
市関係者	中村市長、小島副市長、尾崎教育長、 長島企画部長、高原総務部次長、長谷資産経営戦略局長、 近藤危機管理局長、山崎健康福祉部長、青山子ども部長、 山崎地域振興部次長、齋藤産業部次長、牧環境部次長、 渡邊建設部長、市川上下水道部長、木村市民病院事務部次長、 岩瀬教育部長、加藤消防署長、加藤幡豆支所長 事務局：細田秘書課長、岩瀬秘書課長補佐ほか3名
出席者数	市民108人、地区関係市議会議員4人、市関係者23人、 報道関係者2人
事前意見・質問等	整理区分4件 内訳：質問2、要望2
自由意見等	整理区分11件 内訳：意見5、質問5、要望1

平成29年度 「市長と語る市政懇談会」(幡豆地区)

○細田秘書課長

皆様、こんばんは。

私は、この懇談会の事務局を務めます秘書課長の細田でございます。

よろしく願いいたします。

なお、本日は出席者が、クールビズの推奨によりノーネクタイでの軽装であること、また特産品やイベントのPRポロシャツを着用しておりますことをご承知ください。

それでは、お時間になりましたので、ただいまから「市長と語る市政懇談会」幡豆地区を開会いたします。

初めに、本日の出席者をご紹介します。

この懇談会の開催に当たり、多大なるご協力を賜りました幡豆地区の代表町内会長の皆様で、東幡豆小校区の小嶋隆正様、幡豆小校区の牧野昇司様でございます。

また、市議会からは、鈴木武広議長、永山英人議員、渡辺信行議員、大塚久美子議員。

県議会からは、山田高生議員、渡辺靖議員の皆様に出席をいただいております。

そして、市からは、中村市長を始め、小島副市長、尾崎教育長、関係部局の部長、次長が出席しております。どうぞ、よろしく願いいたします。

続きまして、本日の予定をご案内いたします。

この後、15分ほどのお時間で、市長が市政運営についてお話を申し上げます。その後、幡豆地区から事前にお伝えいただきましたご意見やご質問などに対しまして、市から回答をさせていただきます。

また、これら地区とりまとめのご意見等とは別に、参加者の皆様から広くご意見等をお聞きする自由意見交換の時間も設けておりますので、まちづくりに対するご提案やご意見、その他、地域の困り事や関心事などがございましたら、ご発言をいただきたいと思っております。皆様との懇談のお時間は午後8時15分までとさせていただきます。その後、若干の事務連絡を申し上げて閉会いたしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

なお、記録用として、懇談会の音声録音と写真撮影をさせていただきます。懇談会記録は準備でき次第、公開させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、市長、よろしく願いします。

○中村市長

皆さん、こんばんは。市長の中村健でございます。

本日は、幡豆地区での市政懇談会を開催いたしましたところ、本当に多くの皆様方にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、日ごろは市政各般にわたりましてご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

市政運営についてお話をさせていただく前に、幡豆地区におきましては、伝統行事ですとか地域資源をPRするイベント、その他、地域のことを次の世代に伝える活動などが活発に行われておりますので、この場を借りて幾つかご紹介させていただきたいと思っております。

まず1つ目が、民話をモチーフとした田んぼアートということで、こちらは恒例となっておりますが、鳥羽町の田んぼ約15アールで、幡豆の地域ふるさと協議会による田んぼアートが行われております。7月上旬が見ごろということで、少し見ごろは過ぎてしまっておりますが、10月上旬には稲刈りが行われるということでもあります。

そして、2点目が愛知こどもの国で、ふるさと納税によるSLの運転体験というものが行われました。こちらは8月18日のことでありまして、今、結構テレビや雑誌などで話題になっていますふるさと納税の返礼品の1つといたしまして、SLの運転体験というものが企画されました。こちらについては、幡豆の出身で現在神奈川県にお住まいの会社員の方が、蒸気機関車B12しおかぜの運転体験をされました。

そして、3点目ですが、こちらは手づくりいかだレース「はずストーンカップ」です。7月30日のことではありますが、東幡豆漁港を舞台に、はずストーンカップチャンレンジレース2017が行われまして、今年は市内外から総勢56チームが参加ということで、大変

にぎわったということでもあります。

続いて、市政運営についてお話をさせていただきたいと思うのですが、本日の市政懇談会というものは、西尾市においては2年に一度行われております。市民の皆様方の声を聞く方法というのは幾つかあるわけではありますが、こうして顔を合わせた形で、市の幹部職員も揃って、皆様方と意見交換ですとか、質疑応答をするというのは大変貴重な機会だと思っております。内容的に要望とかご質問に対してお答えするのはもちろんなのですが、西尾市といたしまして、そうした政策にかける思いですとか、市政運営に対する姿勢などもあわせて皆様方に伝わるような形で、できる限りお答えさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお話ししたいと思います。

そして、市政運営についてですが、私自身が7月5日に市長として就任させていただきました。その後、7月14日に市議会の臨時会というものが行われまして、そちらの中で所信表明を述べさせていただきました。所信表明というのは、言ってみれば、今後4年間、西尾市政をどのようにかじ取りするのかという私自身の考えを述べたものでありまして、本日は、その中から幾つか重要なところをピックアップする中でお話をさせていただきたいというように思っています。

私の所信表明の中で何点かお話をしているのですが、その中で、最初に、市民主役のまちづくりというところを掲げさせていただきました。西尾市に限ったことではないのですが、行政運営をしていく中で、市役所が主導で一方的に決めるというのは、なかなか物事がうまく機能しないという時代になってきます。そうした中で、市民の皆さんといかにコミュニケーションをとりながら、そうした声をお聞きして、それを反映させるかというのがとても大事な時代になってきているというように感じています。

また、自分自身が市長選挙を戦うに当たりまして、こちらの幡豆ももちろんなのですが、市内をくまなく回らせていただく中で多かった声といたしまして、行政ですとか市役所に対する心の距離感をすごく持っていらっしゃる方がいたように感じています。特に幡豆については、合併前の役場というのがすごく身近で、気軽に何でも相談できるような存在だったのかなと思うのですが、なかなかそれが合併をした中で、気軽に足を踏み入れづらかったりとか、少しはばかられてしまうというご意見をお聞きしまして、そうしたところからも、私自身も踏まえて、できる限り地域の皆様方に溶け込む形でいろいろコミュニケーションをとらせていただいて、もっと市役所とか行政を身近に感じていただけるようにしたいというように考えています。

その中の具体的な方法論といたしまして、今、市の政策をつくっていく仕組みの中で、どのようにしてそうした声を取り入れさせていただくかという制度をつくっているところであるのですが、例えば何か特定のテーマを絞って、例えば幡豆地区における観光がもっと盛んになって、観光客が増えるためにはどうしたらいいのかとか、そういったテーマを絞っていく中で市民の皆さんに参加を募るのですが、決め打ちをして誰々さんお願いしますとかではなくて、無作為抽出というのですけれども、誰にいくかわからないような形で、例えば幡豆地域にお住まいの方500人に郵便を送って、こういった幡豆の観光を考えるグループワークをやるので参加してみませんかとかいう、そうしたご案内をする中で、ご希望される方に集まらせていただいて考えるとか、そういった形をすると、もちろんお考えとかご意見がある方にお聞きするのはもちろんなのですが、そういったところにはちょっと二の足を踏むけれども、観光のテーマについて考えていないわけではないとか、いわゆる声なき声を聞くことができるということで、そうしたことを1つ取り組みとして取り入れていきたいというように考えています。

また、市の予算編成の過程などについても、できる限り公開をして、市の予算はこのような形で決まっていますなどといった情報公開も進めていく中で、市民の皆さんができる限り市政に参加しやすいような環境をつくっていききたいというように考えています。

それともう1つ、市民主役というところでお話をしたいのが、いかにして地域のコミュニティの力を維持して取り戻すかというところは、非常に重要だと考えています。この幡豆地域というのは、まだまだ地域のつながりですとかコミュニティの力というのがある地域だと考えているのですが、全国的な傾向といたしましては、やはり地域のつながりが希薄化したりとか、核家族化が進んで、どんどんそういったつながりが薄れてい

って、地域で何かをやるにしても人が集まらないとか、後継者が見つからないなどといった、そうした悩みを抱えている地域がたくさんございますので、そうしたところの地域コミュニティの力を取り戻すために市として何が支援できるかというところを考えた中で施策を打っていきたいというように考えています。

そして次に、少子高齢化と人口減少への対応というものを挙げました。これは全国的な問題でありまして、今の日本が抱える最大の問題であると考えています。この少子高齢化と人口減少がなぜおそろしいかと言いますと、西尾市にとっては、例えば税収が落ち込むとか、市場規模が縮小するので物やサービスが売れなくなるとか、あとは労働力自体も減るので企業の生産力が落ちるとか、社会保障ですとか税における現役世代の負担が増えるということで、これまでの社会の仕組みを大きく変えかねないような問題であるので、いかにしてこの人口減少を防ぐかというのが、すごく日本全体にとって課題になっています。そうした中で、政治の世界では、特にここ何年か、地方創生ということが盛んに言われているのですが、この地方創生の本質というのは、各地域が他の地域のまねをするのではなくて、その地域にある、その地域ならではの特徴を生かして地域づくりを進めていこうという、そうしたところが趣旨だと考えています。

具体的な着眼点といたしまして、住みたいまち、そして、働くことのできるまち、また、訪れたいまちというところから、地域活性化に向けた取り組みをしていくということが非常に重要だと考えておりまして、具体的などころといたしまして、まず住みたいまちというところについて、1つは、いわゆる子育て世代を応援して、一番税金を払って、一番お金を使うその世代の皆さんに西尾市に来ていただく。特に、他のまちからの定住促進というのですが、西尾市に来ていただいて、少しでも消費をしていただいて、お金を落としていただくということが重要であると思っていますので、そうした中で、例えば、なかなか子どもに恵まれない家庭に対して助成をするとか、子どもが産まれたけれども、なかなか核家族で育てられないというようなところへの保育の支援とか、そういった形をすることで、子育てをするなら、やはり西尾市がいいなと思っていただけるようなまちづくりを進めていきたいというのが、まず1つあります。

そして、もう1つ考えなければいけないのが、これで合併をして7年目になるのですが、市の面積は大きくなったものの、特にこの幡豆地域もそうだと思うのですが、公共交通を大変不便に感じている方が多いと思います。全国的なニュースなどを見ていると、特に高齢の方が車を運転すると危ないから免許を返納しろというような風潮がないわけではないのですが、では、実際にこの西尾市の特に市街地でないところに住んでいて、免許を返納して日々の生活に困らないかといえば、それは大きな不便をきたすものと考えています。ですから、日用品の買い物に行くとか、病気になったときにお医者さんに行くとか、そうしたところは最低限、公として公共交通のサービスで行けるような形で責任を持って取り組んでいきたいというように考えておりまして、こちらについては少し時間がかかってしまうかもしれませんが、市全体の公共交通がどうあるべきかをしっかり考えてほしいというところで、今、担当の部署に指示をしているところでありますので、もう少しお待ちいただきたいと思っています。

そして、住みたいまちに続いて、働くことのできるまちということですが、これについては、産業の競争力を強化して、安定した雇用をどう生み出していくかということに尽きると考えています。この西尾市を含む西三河地域というのは、トヨタを始めとする自動車関連産業が大変盛んでありまして、その恩恵があって雇用が比較的安定しているというのが1つの強みであります。このものづくりの西尾というところの特色は、当然力を入れて生かしていきたいと思っていますが、その一方で、農業とか漁業とか、そうした一次産業も大変盛んな地域だというのがこの西尾市だと思っていますので、例えば農業だと担い手が不足しているとか、漁業ですとアサリが壊滅的な状態にあるということで、一次産業というのは、一旦落ちてしまってもう戻らないといえますか、大変影響が深刻なので、市としても守るべきところはしっかりと守っていききたいというように考えています。

そして、働くことのできるまちに続いて、訪れたいまちというところですが、これについては、観光の取り組みをさらに進めていくということが一番重要であると考

えています。合併をいたしました今の西尾市では、西尾の抹茶ですとか一色のウナギのような各種の特産品以外にも、名所旧跡ですとか温泉などもありますし、この幡豆地域においても、三ヶ根山を始めとして風光明媚な観光資源がたくさんございます。こうした多種多様な観光資源があるまちというのは、県内を見てもそれほど多くなくて、あとはそれをいかにうまくPRして、多くの方に西尾市に来ていただくかということが重要になると考えています。これについては、西尾市観光協会という観光を進めていく組織があるのですが、そうした組織をしっかりとこ入れして、支援をしていくのが1つと、あとは、この幡豆地域などでも、まちの活性化に取り組んでみえる若者などもありますし、民間のそうした活動が積極的に行われるように、市としてもいかにバックアップできるかということが大事なのかなというように考えているところであります。

そして、人口減少の項目に続いて、行財政改革の必要性というものを挙げさせていただきました。現在西尾市は、正直大変厳しい財政状況に置かれておりました、それに加えて今年度から、国からもらえる地方交付税というものが段階的に削減されることになっております。西尾市全体の一般会計というのですが、財布が大体550億円ぐらいで、その550億円の中で、5年後には国からもらえるお金が二十数億円減ってしまうのですね。そうすると、全体で5%ぐらいになるのですが、この部分にどう対応していくかというところは非常に苦しいところでありまして、いろいろニーズがある中で全ての政策をやっていくというのはなかなか難しいので、優先順位をつけながら、あれかこれかという形で取捨選択をしていくということが重要であると考えています。

歳出、出るお金を減らすために、ある程度、事業の優先順位をつけていって、時代に見合わないものは廃止するという含めて考えていかなければならないというのがある一方で、やはり入るお金を増やすということも大事でありまして、先ほど少しお話をさせていただいたふるさと納税についてですが、平成29年度は、このまま行けば1億円ぐらいの寄附が集まる見込みでありますし、それ以外にも、例えば企業と組んで広告の収入を増やすとか、そうした税金以外の部分の歳入をいかに増やすかというところですか、あとは、やはり基本となります税金の収納率というのですが、払うべき方にしっかりと払っていただくというところの取り組みにも力を入れて、入るお金もしっかりと確保していく必要があると考えているところであります。

大まかな流れといたしましては、そうした市民主役のまちづくりとか、人口減少に備える対策とか、あとは行財政改革をしなければならぬというところを訴えてきたわけでありまして、それと別に、私自身が選挙の中で特に、西尾市方式PFI事業の見直しと、産業廃棄物最終処分場建設への反対というところは力を入れて訴えてきたところであります。

西尾市方式PFI事業については、この幡豆地区における建物とかで直接関係するものはないわけでありまして、最大30年間の200億円の事業で、市営住宅をつくったり、プールをつくったり、給食センターをつくったりとかいう形のものが予定されている中で、私自身は、1つには情報公開がしっかりとされてこなかったという認識と、あとは建物をつくっていく、どういったものをつくるかというところを考えていく上で、まだ市民の皆さんに対する説明ですとか、どういったものをつくっていくかというところの意見の聞き取りといいますか、お聞きするところが十分でなかったというように考えていますので、ここについては、正直契約が発効した中でどう見直しをしていくかというところで、現在相手方の事業者と交渉しているところであります。できる限り、市民の皆さんの意見もお伺いしながら見直しを進めてまいりたいと考えています。この200億円の事業をやっていくことが、市の財政として果たして持つかどうかというところも考えなければならぬと思っております。やはりある程度、事業を縮小すべきところは縮小して、市の財政的に、10年後、20年後も破綻しないような形で落ち着かせたいという考えも持っていますので、ご理解願いたいと思っております。

そして、もう1つの産業廃棄物最終処分場の建設への反対というところでありまして、これは一色町生田地区というところに計画されている問題でありまして、どうしても、私が住んでいる三和地区などもそうなのですが、ああ、一色の問題だよなという捉え方をされることがすごく多いのですが、実際これは西尾市全体の問題でありまして、そこ

に処分場ができてしまうと、漁業を始めとする、そうした一次産業に対して、風評被害も含めた大きな影響が考えられることですか、特にあそこの周辺については、南海トラフ大地震という大きな地震が将来的に起こったときに液状化も心配される地域でありますし、本当にそこにつくってしまって、三河湾全体の環境ですとか、市民の皆さんの生活が大丈夫なのかというところを考えたとき、そこにつくるのは適切ではないといえますか、私としては反対ということですと申し述べてまいりました。

現在この問題については、大学の先生方、いわゆる学識経験者の方々にもお力をお借りいたしまして、本当にその地域につくっていいのか、つくっても大丈夫なのかという点で検討していただいているところでもあります。感情的な部分で、その良い悪いということ以外にも、やはり学識的なのか、専門的な観点からこの場所につくるべきではないといったところを県に示しながら、市として反対の姿勢を明確にしていきたいというのが私自身の考えであります。

大まかなところとしては以上になるのですが、38歳の人間を市長として皆様方を選んでいただいたことに対して大変感謝しております。まだまだ、私自身が当然完璧な人間ではございませんので、皆様方のご意見をお聞きすることもしっかりと重視しながら、一緒にこれからの西尾市の将来を考えてまいりたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

○細田秘書課長

ただいま市長からお話のありました市政運営に関し、ご質問などがある方は、後ほど設けます自由意見交換のお時間の中でご発言をお願いいたたくとして、次に、幡豆地区から事前にご提出いただきましたご意見やご質問などについて、市から回答をさせていただきます。

ここからは、今回の懇談会で幡豆地区の代表者としてお力添えをいただいております、東幡豆小校区の小嶋会長に進行をお願いいたします。本来ならば、市の主催ということで、市の職員が司会進行を務めるところであるかとは思いますが、この懇談会では、堅苦しくなく、活発な意見等をお出しいただけるよう、地区のことをよくご存じの町内会長様に進行役をお願いしております。

それでは、小嶋会長、よろしくお願いたします。

○司会（小嶋会長）

皆さん、こんばんは。

東幡豆小校区の代表町内会長の小嶋でございます。

皆様におかれましては、日ごろから町内会の活動などにもご協力いただきまして、誠にありがとうございます。また、本日はこの懇談会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

本日は、市長を始め、市役所の幹部の皆様にご直接声を届けることができるよい機会です。限られた時間ではありますが、幡豆地区、さらには西尾市を住みよいまちにするために有意義な意見交換ができればと思っております。

それでは、ご指名を受けましたので、ここからは私が進行を務めさせていただきます。進行にご協力をよろしくお願いたします。

初めに、幡豆地区から事前にお伝えした意見などに対して、市から回答をいただきます。町内会長会などでまとめた質問がございますので、よろしくお願いたします。

限られた時間で効果的に懇談会を進めるため、あらかじめ4件の意見等をお伝えしてあります。これらについては、ご意見を提出された町内会の方などに内容を読み上げていただきまして、市から回答をいただきます。なお、市からの回答に対して再度のご意見やご質問がある場合は、全ての回答があった後にお聞きしますので、よろしくお願いたします。

それでは、1件目を、東幡豆町内会長会副会長の三田様、お願いたします。

○東幡豆町内会長会（三田副会長）

1 件目の要望を述べさせていただきます。

防犯灯についてです。細かく分けて2点あります。まず1点目としまして、防犯灯等設置の申請に対する決定時間の短縮です。防犯灯の球切れ等が起きますと申請をいたしますが、市から補助金が出るのが決定されるまでの期間が長過ぎると思います。申請から決定までの間は防犯灯が球切れになります。そのため、生活に支障が出たりしますので、手続期間の短縮をお願いします。

2点目としましては、防犯灯の設置管理主体の見直しということで、中部電力等からの情報では、近隣市では、防犯灯を市が設置管理しており、町内会が管理しているのは西尾市だけということでございます。ポール等が倒れて重大な被害が出た場合、補償を町内会に求められても、町内会では負担する能力がございません。設置管理のあり方を見直して、市など、責任の持てる団体で管理していただきたいと思います。

1件目は以上でございます。

○司会（小嶋会長）

市長、よろしくお願いたします。

○中村市長

三田さん、ご要望ありがとうございました。

まず1点目についてお答えいたします。防犯灯についてのご要望のうち、設置申請等の決定期間短縮についてであります。防犯灯の設置申請については、各町内会から毎年多数寄せられていただいております。特に年度当初については、それが集中する傾向にありまして、大変ご迷惑をおかけしております。申し訳ありません。これについて、数年前は予算の都合によりまして、申請から補助金交付決定までというのが大変期間を要したわけですが、現在は、特に電球切れによる改設ですとか新設については、緊急性が高いという市の判断によりまして、事務処理の迅速化に努めているところであります。できる限り地域の方々の生活に支障をきたさないように決定期間の短縮を図ってまいりたいと思いますので、ご理解を願いたいと思います。

そして、また、現在点灯中の蛍光灯からLEDに変更するものにつきましては、予算の執行状況を見ながら対応させていただいておりますので、あわせてご理解を願いたいと思います。

続きまして、2点目の防犯灯の設置管理主体の見直しについてであります。こちらについて、近隣市の状況といたしましては、豊田市と安城市で、西尾市と同様、防犯灯の維持管理を町内会で行っていただいております。

また、ポールの老朽化への対応ですが、現状では、防犯灯を設置する際に電柱を使用する事例が多くありますが、ポールを使って防犯灯を設置している場合につきましては、例えば防犯灯を蛍光灯からLEDに機種変更するに合わせて新しいポールに取りかえていただいているところも実際にご覧いただけます。この場合は、ポールの取りかえ費用が補助金交付の対象となっておりますので、ご承知いただければと思います。

なお、防犯につきましては、西尾市安全なまちづくり条例というものがございまして、その基本理念の中で、「自らの安全は自らで守るとともに地域の安全は地域で守る」というところを基本的な考え方とさせていただいております。防犯灯の設置の必要性の判断ですとか、日常の維持管理につきましては、大変お手数をおかけしますが、引き続き各地域の町内会にご協力と申しますか、お願いしたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

○司会（小嶋会長）

ありがとうございました。

次に、2件目も、東幡豆町内会長会副会長の三田様、お願いたします。

○東幡豆町内会長会（三田副会長）

続きまして、2件目の要望をさせていただきます。

幡豆地区におけるくるりんバスについてですが、先ほど市長から少しお話がありましたが、改めて要望ということでお話しをさせていただきます。

現在、高齢者が増えて、車の運転ができない人の移動手段がございません。昨今、高齢者の自動車事故がいろいろ問題視されております。そこで、くるりんバス等の移動手段があれば、事故の減少にもつながります。幡豆地区、特に交通の便が悪い鹿川地区にぜひ、くるりんバスを通していただきたいというのが要望でございます。

○司会（小嶋会長）

市長、よろしくお願ひいたします。

○中村市長

2件目のご要望、ありがとうございます。

くるりんバスにつきましては、合併後、特に一色、吉良、幡豆については、現状、路線が開設されていない状況であります。この六万石くるりんバスにつきましては、地域との協働によって、各地区内の移動手段について検討を行うということになっておりまして、このたび一色地区におきましては、地元の皆様方からの提案に基づいた新たなコミュニティバスというものが10月1日を目途として運行されることとなっております。ご要望いただきました幡豆地区において、いつ、誰が、どこへ移動するのに困っているのかというところから、できれば議論を始めさせていただいて、地元の皆様方と一緒に、その地域に合った交通手段の確保を検討していきたいと考えております。ご要望いただきました六万石くるりんバスを通すのがいいのかというところも1つの選択肢ですし、あとほかの交通機関といたしまして、デマンド型乗合タクシーの「いこまいかー」というものもございます。例えば吉良地区などですと、そのいこまいかーというもののサービスの拡充というところで検討されていて、バスだと、バス停から目的地までという交通機関でありますけれども、そのデマンド型タクシーだと、自宅から目的地までという形でのドア・ツー・ドアといいますか、そのバス停まで行くとかいうところのご足労をかけないので、そうした交通機関を拡充していくのがいいのか、バスを通すのがいいのかとか、幡豆の地域全体でどういった交通サービスが一番いいのかというところを一緒になって考えさせていただきたいというように思っていますので、よろしくお願ひいたします。

○司会（小嶋会長）

ありがとうございます。

次に、3件目を東幡豆町内会長会会計の小島様、お願ひいたします。

○東幡豆町内会長会（小島会計）

こんばんは。東幡豆町内会長会会計の小島と申します。

3件目は、代々表町内会長の負担軽減ということで話を進めさせていただきます。

今年度から代々表町内会長、副代々表町内会長が市内6地区の輪番制で選出されることになりましたが、市の各種委員とか行事などへの出席等が多くなっておりますので、それに対しての負担軽減は必要と考えています。そこで3点をお聞きします。

1つ目として、代々表町内会長、副代々表町内会長が各種委員や行事、式典などに出席を求められるのは、年何回でしょうか。その辺が不明でありますので、過去3年間の回数を教えてください。

2つ目として、委員就任や出席については、法令などの根拠がある委員会や行事はありますか。根拠のある出席ですね。やはり、就任されて辞退や行事等を欠席しても差し支えなければ出ないようにしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

3つ目として、各種委員については、一般公募など委員会の目的にふさわしい見識や意欲を持った住民を選ぶ努力をし、論議を活性化すべきではないでしょうか。

以上です。

○司会（小嶋会長）

市長、よろしくお願ひいたします。

○市民

すみません。今まで全部市長が答えています、一応、担当業務の人がみえるので、市長ではなくて、担当者に答えてほしいのですけれども。

○司会（小嶋会長）

とりあえず市長に答えてをいただいて。

○市民

回答は、市長が全部まとめているわけではないのでしよう。どうも、聞いていて、市長は全部知っているようなのですけれども、他の人が知ってみえるか、その辺が不透明なので聞きたいなと思っています。

○司会（小嶋会長）

市長のお答で、まだ不明な点がある方については、後からまた質問の時間を設けて。

○市民

2年前も私は出席したのですけれども、市長が答えられなかったよね。全部、担当の部長とかが答えていました。ということは、今の部長などは全部知らないということ。市長が全部知っているということ。それがどうも気になって、今までずっと聞いていました。市長は明快な回答をズバツと言っているのですけれども。

○中村市長

では、担当から。

○市民

そう。それでお願いします。すみません。わがまを言って。

○山崎地域振興部次長

ご意見ありがとうございます。地域振興部次長の山崎でございます。

それでは、ご要望によって、担当次長のほうから答えさせていただきます。

3件目の代々表町内会長等の負担軽減についてのご質問のうち、1点目の市の各種委員や行事式典などへの出席等でございますが、代々表町内会長の出席回数は、東部、西部を合わせて、平成28年度は15の会議等で31回、平成27年度は14の会議等で25回、平成26年度は15の会議等で25回でございます。

また、その出席率につきましては、全ての会議にご出席をいただいておりますので、各年度とも100%のご出席ということでご報告させていただきます。

なお、副代々表町内会長は、代々表町内会長が会議等に出席できないときの代理出席等、代々表町内会長の補佐をお願いしておりますが、過去3年間の会議等へのご出席はございませんでした。以上、ご報告でございます。

次に2点目の、法令などの根拠がある委員会や行事の有無でございますが、法令などの根拠がある委員会等につきましては、西尾市防災会議条例による防災会議や、西尾市環境基本条例による西尾市環境審議会等、平成28年度は6つ、平成27年度は7つ、平成26年度は7つの会議等がございました。

また、委員就任の辞退や行事等を欠席することにつきましては、平成28年度が12会議等、平成27年度が11会議等、平成26年度が13会議等で差し支えございませんということでご了解いただいております。

なお、残りの会議等につきましては、会議日程調整や代理出席をお願いするなどのご対応をさせていただきます。

次に3点目の各種委員の一般公募でございますが、市では、平成22年度から審議会等の活性化及び合理化を図るために、基準を定め取り組んでいるところでございます。

市長が所信表明で申し上げましたように、市民の皆様が率直なご意見が述べられる仕組みを整えるということで、市民の皆様と同じ目線で考え、市民の皆様の声が届く市政を実現してまいりたいと私どもは考えております。

審議会等の委員の選任に際しましては、広く人材を求め、同一人物の重複就任の制限や女性委員の方の登用及び公募制の推進等を積極的に取り組んでまいりたいと考えておりますが、住民の方の代表という、いろいろな規定や位置づけがございます。この辺を十分ご理解いただいて、大変かと思いますが、今後とも引き続き行政のほうにご協力いただきますようお願い申し上げます。

○司会（小嶋会長）

ありがとうございました。

それでは、事前に用意しました質問の最後4件目も、東幡豆町内会長会会計の小島様、よろしく願いいたします。

○東幡豆町内会長会（小島会計）

4件目は、幡豆の公共施設再配置ということで、一色、吉良のほうでは老朽化で公共施設の統廃合が進められていると思うのですが、幡豆のほうはどうなるのかわかりませんので、その辺を少しお聞かせください。老朽化も多分、公民館もそうだと思うのですが、その辺を調べてもらって、統廃合できることがあれば、進めてほしいと思います。

○司会（小嶋会長）

よろしく願いいたします。

○長谷資産経営戦略局長

こんばんは。公共施設再配置の担当部長をしております資産経営戦略局長の長谷でございます。よろしく願いいたします。

幡豆の公共施設再配置についてのご質問でございますが、幡豆地区では、再配置モデル事業といたしまして、平成24年度から平成25年度にかけて、消防署の幡豆分署を幡豆支所へ移転、そして、旧幡豆町議会議場を倉庫として活用するための改修を実施してまいりました。

そして、公共施設再配置の第1次計画でございますけれども、平成26年度から平成30年度までの5年間に着手するプロジェクトをまとめました「西尾市公共施設再配置実施計画2014→2018」としまして、主に吉良地区と一色地区が中心の計画となっております。

幡豆地区におきましても法定耐用年数が近づいている施設がございます。ただ、耐用年数が過ぎましたらすぐに建て替えを行うということではなく、施設の状況や施設ごとの個別計画を踏まえまして、施設の長寿命化や施設の統廃合を検討し、この幡豆地区を含めた西尾市全体から見た最適な公共施設再配置となるような、いわゆる第2次計画を今後作成してまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○司会（小嶋会長）

ありがとうございました。

私ども幡豆地区から事前にお伝えしました全ての意見、質問に、市長及び担当の部長からお答えいただきました。

ここで、今までの回答に対するご質問をお受けしたいと思っております。ご発言に当たりましては、挙手をお願いいたします。私が指名をさせていただきますので、お住まいの町内会と名前をおっしゃって発言をお願いいたします。限られた時間でありまして、要旨を簡素にまとめてご発言いただきますようお願いいたします。

それでは、ご発言のある方、挙手をお願いいたします。

○福祉を進める会（コジマ様）

福祉を進める会代表のコジマです。

先ほど市長からデマンド方式の回答をもらいました。今まで西尾市として、校区内ということで決まっていたのですが、目的地までという話がありました。これからはそのように変更してやっていっていいですか、市長。

○司会（小嶋会長）

デマンド方式の運用について。市長、よろしくお願いいたします。

○中村市長

ご質問、ありがとうございました。

デマンド型タクシーについては、市全体の中で、こういったサービスですという基準があるのですが、現在の仕組みですと、各校区で協議会という組織を立ち上げていただく中で、自分の校区については、もう少しそのサービスをこのように変更してほしいというご要望があれば、それを市と一緒に考えていく中で変更していくということができます。ただし、幡豆にお住まいで、例えば平坂のほうの目的地まで一気にいけるかというと、現実的にはなかなか難しいのですが、幡豆地区の中で生活されていく中で、特に用事が多い、スーパーマーケットとか医療機関とか公共施設とか、そうしたところについては、今の基準だと行けないのですが、行けるような形での改善というのはできますので、そうしたところと一緒に地区の方々と考えながらサービスの改善を図っていきたいと考えているところであります。

○福祉を進める会（コジマ様）

合併したときに、うちの会はこれを前の市長に話をし、今、新市長が言われたとおりのことを主張したのですが、各校区でなければいけないということで、今、市長の話を聞いて喜びました。

○司会（小嶋会長）

市長。

○中村市長

一応、平成32年度までは、市の計画によって今の仕組みで行くことになっています。基本的には、これまでの仕組みというのが、校区で組織をつくって、校区でルートを決めて、校区で案をまとめてくださいということになっていたのですが、それというのは、各地元の皆さんに対する負担が大きいやり方だと思っています。やはり公共交通の問題については、市としてももう少し意識を持って考えるべきであると思っています。だから市全体の公共交通の在り方を見直していく中で、今の仕組みを取り入れながら、例えば幡豆地区であれば、幡豆の皆さんと、もう少し柔軟な形で考えていきたいというところでありますので、ご理解いただければと思います。

○司会（小嶋会長）

うしろのほうの方。

○寺部町（コジマ様）

寺部町のコジマといます。

先ほどのタクシーの件ですが、私の聞いている範囲では、例えば寺部の人が西尾市民病院へ行く場合は、最寄りの駅までしかだめですよ。最寄りの駅へ行って、名鉄に乗って、例えば西尾の駅で降りなさいよと、そういうご指示だったですよ。それでは、使い道がないわけで、なぜこの地区から西尾市民病院へ行くのに、タクシーを頼んで、

駅まで行って、駅で名鉄に乗りかえて、また吉良の駅で乗りかえて西尾まで行かなければいけないのかと。なぜ直接西尾市民病院へ行けないのかと。そういうことで何度も話をしたのですが、一切、名鉄主体ですということ、今までやられています。それで、名鉄担当の市職員が来て、名鉄以外は考えられませんよと、そういう返答だったのですよ。私は、名鉄が何だと、いつまで名鉄と言っているのかということは何度も言っているのですが、私は名鉄という公共交通は大事だと思いますが、歩けないような人が市民病院へ行くのに、なぜ直接西尾市民病院までタクシーを使ったらいけないのかと。そういうことは一切聞き入れてもらえなかったです。その辺についても、今、市の職員の方の反省の弁というのか、主張をお尋ねしたいです。

以上でございます。

○司会（小嶋会長）

よろしく願いいたします。

○山崎地域振興部次長

ご指摘、ありがとうございます。

今、コジマさんが名鉄が大事だとおっしゃられましたが、本当にこの幡豆地区だけではなく、西尾地区に基幹交通として、ものすごく地域の発展等にも絡む大きな公共交通でございます。

それともう1つ、西尾市民病院まで直接行けないということがございますが、それは幡豆だけではなく、ほかの地区の皆様方も同じで、公共交通というのは、うまく乗り継いでいただいて、特に歩けない方のためではなく、一般の生活の中でご利用いただけるような足の確保ということをお網のように結びつけていくというのが公共交通の、今、私どもが理想として考えているものでございます。

先ほど、駅まで行って駅からということもございますが、市長が申し上げました、吉良で今進めておりますのが、駅の近くで、例えばお年寄りの方が買い物に行きたいと思っても、またそこから何百メートルも歩くようなことはおかしいじゃないかというお声があったものですから、そうしたものに関して地区協議会のほうで、皆様方とどういったところまで行けるのかと。それと、これは市と皆様方だけで考えても進めませんので、タクシー事業者も仕様・装備といいます、タクシーの台数に限りがございますので、そういった台数と考え合わせまして、そういった新しいデマンド型タクシーの行き先を変えているというのが現状でございます。

ご理解いただけましたでしょうか。

○寺部町（コジマ様）

いや、理解はできないけれども。しょうがないなど。

○山崎地域振興部次長

すみません。ご納得いただけない回答かもしれませんが、結局、名鉄西蒲線を大事にするというのは、地域振興の部分からもございますが、やはり片方の公共交通を使ってしまうと、市が両方に無駄というか、ダブった支出をするということになってしまいますので、やはり、効率的な公共交通を再編していくということも非常に大事だと考えておりますので、お願いばかりで申し訳ございませんが、ご理解いただきたいと思っております。

○司会（小嶋会長）

ありがとうございました。そのほか、どうでしょうか。

○寺部地区13番組（イカ様）

寺部地区13番組副組長のイカと申します。

先ほどから聞いておまして、くるりんバスとかこのデマンド方式というものですか、私も正直言って理解していないところも多いですが、各地域単位の話ですよ。一色地

区、吉良地区、西尾地区と。要は、西尾のくるりんバスというのは、もともと従来の西尾市の範疇でやっていたことですよね。今は西尾市幡豆町、西尾市吉良町、西尾市一色町、全部同じ西尾市ですよね。それなのに、なぜエリアごとの単位の話になるのですか。ちょっとその辺がわからなくて。要はそういうふうで、予算なり何なりの関係もあるというのはわかるのですが、その西尾市に合併した以上は、西尾市全体として、くるりんバスとかデマンド方式ですか、そういうのも考えるべきではないのですか。先ほどから聞いていて、あくまでもエリア単位の話しかないのでよね。先ほど市長が言われました、西尾市吉良町の人がすぐ隣のスーパーマーケットへ行くのに何とか、一色の人が病院へ行くのに何とか。それでは、逆の言い方をして、幡豆町に関しましては、病院が個人病院しかないですよね。西尾市幡豆町から西尾市民病院へ行くわけですよね。それにもかかわらず、そういうルートバスというのが西尾市の公共の市民病院等に使えないというのは、ちょっとおかしくないですか。従来でしたら、それは幡豆町だ、吉良町だという、市町村単位で、ある程度、物事を考えていくのは当然かと思うのですが、合併して1つのまちですよね、西尾市という。西尾市という1つのまちを、なぜまた、わざわざ細分化して、そういう考え方として、その地区だけでやってくださいというのはどうかと思うのですが。その辺のことを市長にお伺いしたいです。

○司会（小嶋会長）

市長、よろしくお願いたします。

○中村市長

細かいところで補足があれば担当の職員から説明させますが、私の認識として話をさせていただくと、西尾市の中で公共交通計画というものがあります。その計画が策定された以降、各校区というか各地区で何か公共交通のサービスを変えたりとか、新しく何かをやりたいという希望があれば、その校区ごとで何か組織を立ち上げて決めてくださいというやり方に変わったと認識しています。今、くるりんバスが市内で3路線走っていますが、それは、その計画が策定される前の段階で、既にその路線が開設されていたという状況にあります。私が住んでいるのは合併前の西尾市ではあるのですが、三和地区というところになります。一応、一部路線が走っているといえは走っているのですが、そのバスからかけ離れたところに住んでいる方もたくさんいらっしゃるのでも、同じように現在の仕組みの中では、地元で組織を立ち上げてコースなどを自分たちで考えてくださいねというやり方ですとずっとやってきて、なかなかそれがまとまらずに、自分の住んでいる地区でも、新しい公共交通のサービスが提案できていないという状況にあります。

地元の皆さんの声を大事にしながらその意見を反映させていくというのは大変大事ですので、それ自体を否定するつもりはないのですが、そういった組織の立ち上げやコースの設定なども各地区でやってくださいというのは、私はかなり負担が大きいとっていて、それを見直したいというところで選挙の1つの政策に掲げました。

デマンド交通のいこまいかーについては、基本的には市内全域を回ると、その経費の部分とか効率性の部分でどうしても採算性が悪くなるので、ある程度、例えば中学校区などでの移動という形の位置づけになります。ですが、くるりんバスについては、幡豆地区だけで回らせるのがいいのか、そうではなくて、市内全体のバス路線の在り方としてどうすべきかというところは、もっと市として考えないといけないというように思っていますので、例えば幡豆地区の中でどうするかというところは、地元の皆さん方と一緒に考えていくのとは別に、市内全体として、やはりどういう公共交通であるべきかというのは、少し時間がかかるのですが、しっかりもう1回考え直してほしいというところは担当部署に指示をしているところでありますので、ご理解いただければというように思います。

○司会（小嶋会長）

よろしいでしょうか。そのほか。

○寺部地区（コジマ様）

結局、そのくるりんバスなどについて、どうしても校区内だけのことしか考えたらいけないと、そういうご指示のもとに話が出ているものですから、地区の人間が考えたって、あほらしくてやっていられないと。例えば八幡の人が鳥羽の駅までしかだめですよと。そんなものはバスを通してはどうしようもないじゃないですか。そういうところから話をされているものですから、路線バスがどうの、なんだかんだという話になってしまって、全然地区で路線をまとめて出そうとか、そういう気にはならなかったというのが本音です。わかりましたか。

○司会（小嶋会長）

そういう思いで、今までずっと市の公共交通を見てきた方もいらっしゃいますので、その辺もまた受けとめて、より柔軟な対応をよろしくお願ひしたいと思ひます。

最初の4点の話題についてのご質問、どうでしょう。公共交通のほうに話が集中しておりますけれども。

それでは、特になければ、他のことでご意見を言いたいという方もたくさんいらっしゃると思ひますので、ここからは自由意見交換の時間とさせていただきますと思ひます。時間は、8時15分を目途と考えております。先ほどの4点の質問にかかわらず、まちづくりに向けて前向きなご意見とかご提案、あるいはご質問などを受けてまいりたいと思ひます。先ほどと同じように私がご指名しますので、お住まいの町内会と名前をおっしゃって発言をお願ひいたします。

○西幡豆4番組（スギ様）

西幡豆4番組町内会のスギと申します。

先ほどから出ております公共交通の中の鉄道ですね。蒲郡線についての質問を2点、特化してお伺ひいたします。この回答につきましては、担当の地域支援協働課になりますか。それから、市長にもぜひお願ひをしたいと思います。今聞いておまして、中村市長は自分の言葉でお話しされる方だとお見受けいたしました。言っでは何ですが、担当の専門家の方々よりも心のこもった回答が得られそうですので、後でぜひお願ひをしたいと思います。

公共交通の中で、名鉄蒲郡線があります。これについての質問です。

第一は、この蒲郡線のことにつきまして、西尾市役所のホームページで探すことができません。蒲郡市役所を見ましたら、蒲郡市役所では見つかります。西尾市役所のほうでは見つかりません。媒体の中で、ホームページなどというのは非常に強力な媒体でありますので、なぜそういうことを西尾市ではしないのか。あるいは、しているのかもしれませんが、蒲郡線で検索をかけますと、交通、防犯から出てくるのですね。西蒲線のホームページというのは、応援団というのがありまして、民間の団体のホームページへリンクしております。要するに、丸投げという形でありますね。西蒲線応援団というブログがありまして、そこにリンクされておりました。一体行政は、その中でどのような取り組みをしておられるのかというのが第一の質問であります。

それから、2番目の質問は、平成28年10月24日に西尾市役所で、第19回の西尾蒲郡線対策協議会というのが開かれております。これは、先ほどから出ておりますような5年計画の中の一環かと思ひますが、その中で「にしがま線げんき戦略」という資料が配られております。それをいろいろ見ますと、大体は市内の広い面積でのことで、幡豆地区に関しての西蒲線、幡豆は、名鉄蒲郡線の中では四つも駅を持っている地区なのです。鳥羽から始まって、西幡豆、東幡豆、こどもの国と四つもありますが、それについて触れるところはほとんどない。2点ありました。「利用促進事業として、以下の内容を行う」というのがあります。これは、平成28年度に事業を策定して、平成29年度からその事業を実施するというように書かれておりますので、一体どのように実施されているのかを聞きたいと思ひます。愛知こどもの国との連携による利用促進というのがあります。もったいな話で、大変いいことでありまして、このことについては、私、自分でDVDを9年前につくりまして、幡豆町時代の議員たちにも配ったのですけれども、DVDの見

る仕方がわからないという議員もいまして、驚いておりましたが、今はそういうことはないと思います。これは2008年のものであります。KATCHの、市民の映像フェスティバルでグランプリをとった作品で、「もしも」という題名をつけてあります。10分ぐらいの作品でありますので、これを市長に差し上げますので、ぜひご覧になっていただきたいと思います。このDVDでは、愛知こどもの国との連携が大事だということを本当にわかりやすく述べたつもりであります。一体、現在どのようにしてこの提携を、事業促進が行われているのか。4月から考えましても、もう5か月たっております。

次に、同じ幡豆地区では、レンタサイクルの活用事業を進めるということになっております。レンタサイクルは大変結構だと思います。レンタサイクルについては、西尾駅で、西尾市の観光協会の主催で電動自転車をレンタルするというようなことがそこにありましたけれども、果たしてこちらの幡豆地区の各駅でどのようにレンタサイクルをされるのか、それを聞きたいと。この2点であります。

以上です。

○司会（小嶋会長）

地域振興部次長、よろしく申し上げます。

○山崎地域振興部次長

非常に貴重なご意見、ご提案まで示していただいて、ありがとうございます。

まず1点目ですが、大変ご不便をおかけしまして、スズキさんだけではなく、ホームページがなかなか入っていきにくいということで、まず初めに、どのようにできているかという今までの部分をお話しさせていただきます。スズキさん、西蒲線の利用促進に関しても大変ご関心を持っていただいておりますので、本当にありがたいと思います。

まず、幡豆にもたくさん関係者がご加入いただいております、西尾・蒲郡線市民応援団でございます。これは市民の方、37団体で組織して、構成されて、活動している団体でございますけれども、こちらのほうに市が利用促進活動に支援の予算支援を行っております。その中で、市民応援団ということで、やはり自主的な活動を促すということで、当時ホームページを1つ立ち上げるのにも結構経費が出るとか、いろいろな話があったものですから、応援団の中で関係者が、何とか安価でできるようなホームページ、ブログ形式のものをつくって自主的な発信を努めておりました。

しかしながら、私どももスズキさんがおっしゃられたことを大変反省しておりまして、やはり情報というのは、西尾市が、例えば公共交通の存続の問題が出ている西蒲線という大きな市の公式サイトの中で、その中にこういう市民応援団の方々も頑張っていますよ。例えば公共交通というのは、電車に結びついていてのは、例えばこういったバス路線も駅で結びついていきますよという一元化したホームページというのを、今、実は再構築しようというように考えております。ちょっと遅れたのは大変おわびを申し上げたいというように思います。1つ目に関しては、スズキ様のご提案どおり、私どもが今、まさにどこからも入れるようなサイトを目指して、構築をし始めているところでございます。

2点目に関しまして、平成28年10月24日に、これは、今までは3年ごとに名鉄西蒲線を何人に目標を増やしますよと、市民応援団の活動を中心に目標を掲げてまいりました。特に今回、幡豆の皆様方も、5年間になったというのはご承知だと思いますが、この5年に合わせまして、目標計画も5か年で考えております。1年に2%ずつ増やそうと。これは今伸びてきて、さらにハードルの高い目標ではございますが、何としてもこれは、もう存続問題が出ないぐらいに皆さんにご利用いただくために、過去3年間の直近の1.7%、少し強めに1年に2%だということで、平成28年から平成32年まで2%増やしていこうということで、それでは、どのように達成していくのかということをもとめてあるのが、「にしがま線げんき戦略」ということで、先ほど名前までおっしゃっていただいて、ありがとうございます。この中で、もちろん幡豆地区の皆様方で、特に通勤・通学をされている方が本当にくまなく、定期というものが一番、今の利用人数を稼ぐものでございますが、それにはもちろん限りもございます。それから、急に人口を増やすということも、簡単なことではございません。私どもが考えておりますのは、やはり今、先

ほど市長も申しましたように、この地区には、皆さんが気づいていないものも、気づいているものも、いろいろな資源がございます。そうした資源を、地元でこういうのがいいのではないかとと言っても、やはり来る人は違いますから、ここに来そうな、特に名古屋方面にいらっしゃるような、鉄道旅の好きな大学生の方々を集めて、今からワークショップをしながら、そういった資源を掘り起こして、これをまた結びつけていこうという考えが、この計画書には載っております。

ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ様のご覧になられた中の最後に、レンタサイクルの活用というのも、その資源を結びつけるのは、駅から余り遠いところに歩いて行けというのは、それは難しいものですから、そこをうまく使っていくのにレンタサイクルが必要であるということで、進捗状況はどうですかということですが、今、そういった一つ一つの資源起こしから着々と準備を進めて、これも市役所だけの内部でやっておりません。幡豆地区全体が、先ほど4駅あるということで、乗降人数も非常に、名鉄西蒲線の駅の中では少ないほうでございます。そこをてこ入れしようということで、みなみ商工会、青年会議所、もちろん社団法人の観光協会、市全体の観光協会もそうですが、それに県の交通担当、私どもの交通担当と、あと県の観光振興課が、それぞれの役割ですね、PRをするところはPRをする。公共交通を検討するところは、公共交通を検討する。あと、地元の商工会は、いろいろな資源を付加価値に変えていくような、例えばおみやげ物だとかコースをつくっていく、体験ツアーをつくる、そういったことを発案していただくという、地域が全体に観光的な経営ができるような枠組みを、実は昨年起こしました。それが、誘客推進部会ということで、蒲郡市と西尾市の応援団が合体した名鉄西尾・蒲郡線活性化協議会というところがございます。ここがげんき戦略をつくっているわけでございますけれども、こちらで今、着々とワークショップを10月に始めさせていただこうと思います。地元の皆さんにも、いろいろな形でまたお声をかけさせていただくこともあると思います。そういうときは、ひとつご協力をいただければというように思います。

少し説明が長くなりましたが、そのような形で誘客推進を積極的に図って、2%ずつ、非常にハードルは高いですが、皆様とともに利用増進を図ってまいりたいと考えております。よろしかったでしょうか。

○西幡豆4番組（ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ様）

10月からレンタサイクルについては、会議を始めるというようなことで、これはわかりましたが、もう一つの、愛知こども国との連携については余り触れていただけなかったのですが、どうでしょうか。

○山崎地域振興部次長

失礼しました。申し訳ございません。

愛知こどもの国に関しましては、2年前に皆さんもチラシ等をご覧になられて、例えば子どもさんやお孫さんがいらっしゃる方はご存じだと思いますが、あいちマーブルタウンというイベントをお聞きになられたことがありますか。

これは、西尾市が直接予算等で関与はしておりませんが、ご存じのとおり、県が愛知こどもの国の指定管理者を、NPO法人のフロンティアというところに委託しております。そこと協働で、近隣市町村の職員が、例えばどういう計画をつくるかという中で参画しているわけですが、この中で、園の活性化と集客人数を増やすということで考えられたイベントがあいちマーブルタウンで、今年も予定されております。こちらのほうは、わかりやすく言うと、全く一緒ではございませんが、キッズニアという、子どもが産業体験をするテーマパークがあると思いますが、キャリア教育、難しい言い方をすると、職業観とか職業を学ぶイベントということで、今、岡崎のNPO法人の力を借りながらやっております。この実績が、初年度の平成27年度は2日間で1万4,000人、平成28年度が8,000人ということで、平成27年度はシルバーウィークが重なったということもあって、この数字でございますが、名鉄電車の利用が非常に多いイベントということで、ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ様のご質問にあった効果というのは、こういったイベントを多く取り入れていくという連携を考えているものでございます。

以上でございます。

○西幡豆4番組（ｽｽﾞｷ様）

イベントについては、よくわかっております。私も行ったりしております。一番の問題は、アクセスの問題なのです。愛知こどもの国というのは、蒲郡線の中で一番乗降人数の少ない駅でありまして、1日大体151人という統計が出ておりますけれども、このアクセスが少ない。こどもの国の駅から園まで行くのに、山道を延々15分歩かなければならないということが一番のネックでありまして、先ほど言いましたDVDにもそのことが書いてありますけれども、それを解消しないと、愛知こどもの国の利用者は増えないと。駐車場ばかりは、大変栄えるわけでありまして、みんな車で来てしまうということがあります。そのことについて、何かお考えでしょうか。

○山崎地域振興部次長

大変難しいご質問をいただきましたが、実は、今申し上げましたあいちマーブルタウンのときには、この人数を、大体1日4台ぐらいのシャトルバスで、先ほど申し上げました、昨年で言えば8,000人ですね。名鉄の愛知こどもの国駅から会場までをシャトルバスで、往復しております。こちらのほうは、1日借りると、大体多く見積っても8万円ぐらいで1車が借りられるのかなと思います。それを人数で割らせていただくと、こういったイベントを有料で行っていても十分事業者で採算がとれるのかなということで、そういう計算が出ておりますので、フロンティア西尾のほうとも、こういった方法も1つは考えていくという、これは現実的な方法の中の1つとして考えております。

もう1つｽｽﾞｷ様のご期待されている長期的な話というのは、公共交通体系全体の話の中で模索をするというやり方があるのかなというように、思っている次第でございます。

○中村市長

まず1つ目のホームページにつきましては、紙媒体だと、どうしてもスペースが限られる中で、ホームページなどのネット媒体ですと、やはりこちらが伝えたいことが、無制限にとは言わないですけれども、無制限に近いぐらいできます。今の時代を考えると非常に効果的な媒体だと思いますので、先ほどご説明しましたとおり、今構築中ということなので、もう少しお待ちいただければと思います。

それと、西蒲線の利用促進についてであります。僕が就任させていただいて、近隣の首長にご挨拶をさせていただいた中で、蒲郡市長とは、この点についてお話をさせていただきました。蒲郡としても、やはりこの西蒲線というか、蒲郡からすれば蒲郡線ですけれども、どう存続させていくかというのは非常に大事な問題だと考えていますというお答えをいただきました。今も、その両市の中での連携や協力関係などはやっていないわけではないと思うのですが、もっと密に連携をとりながら、例えばお互いの取り組みで、いいところは取り入れるとか、両市の問題としてもっと深く考えていきたいというのが1つあります。

それと、廃線にならないためにも利用者を何とか下げどまらせて、できれば増やしたいというところはもちろんで、そうした取り組みの中で、観光面ですとか、そういったことをやっていくのは、まず重要なことだと考えています。では、それをずっと延々とやるのがいいのかといいますと、またそれはそれで違った視点からも考えないといけないのかなと思っております。例えば議会の中からも、これは1つのアイデアとしてお聞きいただきたいのですが、上下分離方式といって、例えば名鉄の路線ではない形での違う会社に来てもらって路線として走らせるとかいうことを、全国を見ますと、他でやっている地域もございます。そういった形を西蒲線で採用するのも、1つの考える選択肢にはなるかと思っておりますので、まずは守る中で利用者を増やすということと、中長期で見て、この路線をどうしていくべきかというところは、両方とも考えないといけないのかなというところと、それに当たっては、蒲郡市ともしっかりと連携を図りながら取り組んでいきたいというところがございますので、ご理解いただければと思います。

○司会（小嶋会長）

ありがとうございました。7かさん、よろしくお願いします。

○12番組（7か様）

今日は、増山副市長が見えませんが、ご公務でございますか。

○中村市長

ナイーブな問題ですが、ご本人から欠席をしますという申し出がありまして、それでは来られていない。

○12番組（7か様）

あと、小島副市長でございましたかね、辞表を出されたとか、出されないとか、新聞で見ましたけれども、その辺はどうですか。一番大事なことだよ、副市長なので。

○小島副市長

副市長の小島でございます。

今、7かさんがおっしゃったように、今日、記者会見の中で記者から聞かれましたので、そのお答えをさせていただきました。辞表については、出しております。

○12番組（7か様）

市長、増山副市長に会えたら、合併のときは大変お世話になりましたので、7かがよろしくお伝えくださいと言っておいてください。

また、鈴木武広議員。幡豆郡の合併があつてから、議長、大変おめでとうございませう。元同僚として、心から御礼申し上げます。

手短かに質問させていただきます。今年度になりまして、各補助金が5%カットされていますよね。それで、皆様方の地域手当等、確かボーナスが去年上がったと思いますが、その辺はいかがでしょう。

○司会（小嶋会長）

総務部次長、よろしくお願いいたします。

○高原総務部次長

総務部次長の高原と申します。よろしくお願いいたします。

補助金のことにつきまして、先ほど7かさんからお話がありましたので、まず、私からお話しさせていただきます。

まず市の財政的なことを申し上げるときに、先ほど市長が挨拶の中で触れられておりましたけれども、平成23年4月1日に合併をしました。普通交付税というものをそれ以来いただいているわけですが、合併すると、合併算定替特例という特例がありまして、西尾市の場合、平成23年度の決算ベースで申し上げますと、約28億円、この特例で余分に普通交付税をいただいております。以来6年間、ずっといただいております。それが、特例ですので、ある一定の時期からそれが減算されていくということで、平成29年度ですね、今年から5年間かけて、その28億円が、まず1年目は9割、2年目は7割、3年目は5割、3割、1割と、5年かけて減っていきます。そのことを先ほど市長が、これから550億円の市の財政のうち二十数億円が減りますというご説明をさせていただいたところであります。

そういうことがわかっておりますので、私どもも歳出を何とか絞っていかねばいけないということでございまして、予算編成の方針で経常経費、経常経費というのは、要するに毎年決まったように出ていく費用のことを経常経費といいますけれども、例えば借上料だとか委託料だとか、もちろん補助金もその中に入りますけれども、この経常経費について、前年度の95%を上限に予算要求してくださいというお願いを各部署にしまして、予算編成をさせていただきました。その中には当然、先ほど申し上げたとおり、

補助金も入っておりますので、補助金も削減の対象になったわけでありましてけれども、先ほどカヤさんがおっしゃったような、一律に補助金を5%カットしてくださいということではございませんので、極力、市民の方の負担増だとかサービスの引き下げにならないように配慮して、予算編成はいたしております。

市の補助金は、数えると164種類あるのですが、そのうち市民の方に直接関係する補助金が39種類ございました。その39種類の補助金のうち、今申し上げた経常経費の5%削減ということのあおりをうけて削減になっているものも実はございますけれども、その39種類の補助金の合計を平成28年度と平成29年度で比較しますと、結果なのではございますけれども、3.04%増額していたという状況がございます。

○司会（小嶋会長）

企画部長。

○長島企画部長

企画部長の長島でございます。よろしくお申し上げます。

私からは、給与に関してお答え申し上げます。我々、公務員の給与は、人事院勧告という制度がございまして、基本的にこれに従って給与改定を行っております。ご指摘の地域手当、ボーナスでございます。今、詳細な資料を持っておりませんが、少なくとも、その地域手当に関しましては、この人事院勧告に従いまして、現在10%まで引き上げております。ボーナスについては、その年ごとに上がったり、下がったりということですが、今年度については微増というような状況となっております。

○12番組（カヤ様）

どうもありがとうございます。

実は幡豆町のときは、駐在員と言われておまして、今の町内会は。その当時は、幡豆町も財政が苦しい中、町内会の報酬を出しておまして、西尾と合併した時点で、おそらく3分の1ぐらいになっているのではないかと。多分、やる仕事は倍あると思えます。広報も月に1回、今、西尾の場合は2回かな。いろいろあると思えますので、本当にその町内会の費用ですかね、報酬というのか、その辺も見直していただければ、見直していただきたいと。その辺は、どうでしょうかね。

○司会（小嶋会長）

地域振興部次長、よろしくお祈いします。

○山崎地域振興部次長

私も町内会を支援する担当といたしましては、一律に上げるというのではなくて、やはり自治振興の在り方というのは、市長が所信表明でもあらわしましたように、コミュニティというのは非常に大事な地域力であります。こうしたものから、西尾市全体として、例えば先ほどもお話がありました雇用、例えば、総生産額を上げたり、こういったいろいろな考え方、指標があると思えますが、そうしたものを今から反映した制度を検討していかねばいけないということで、早急というわけではございませんが、検討させていただく予定でおります。

○12番組（カヤ様）

検討していただけるんだね。

○山崎地域振興部次長

はい。

○12番組（カヤ様）

すみません。市長に伺います。

増山副市長が8月末、それから小島副市長が9月13日だったかな、新聞で見たら。それで、9月議会はやっていけますか。それと、人事案件は市長にあると思いますが、今日、答えていただけたら答えてもらっても結構ですが、できなかつたらできないで結構です。その辺は、どうでしょうね。

○司会（小嶋会長）

市長、お願いいたします。

○中村市長

非常にお答えがしづらいところではありますが、小島副市長については慰留をしているところでありまして、今日の記者会見でこのようになるかどうかというのは想定していなかった部分がありますが、できる限り市政運営に支障が出ない形でやるのが大事だと思いますので、そうした観点から自分自身で行動していきたいというところでありまして、これ以上はちょっと。よろしく申し上げます。

○司会（小嶋会長）

そのほか。それでは、前列から2人目の。

○幡豆地域文化協会（ハジ様）

幡豆地域文化協会の会計を担当しております、ハジと申します。

11月に行われる文化祭、地域で1,500名ほどの参加で盛大にやっているつもりですが、補助金が5%削減されると。幡豆中学校のバンドに頼めば、楽器の輸送費が数万円かかる。保育園の園児に参加していただければ、折り紙を1つ出そうと。そういうことで、いろいろお金がかかります。とりあえずそういうものを、トラックは別にして、いろいろ出すもの、出さなくてもいいものをなくそうということで計画しております。

西尾市の式典に参加しましたが、そこで市長が、開口、イの一番、西尾市は文化のまちと言われました。文化というのは、必要、なければならないというものではないけれども、昨今の世界情勢、あるいは家庭における親子関係、隣人等の関係、このようなものは文化の接着剤で成り立っているのではないかと思っております。そういう意味で、ある文化にかかわる方から、新市長は文化にも力を入れたいというように聞きました。どこかで言われたか、言われぬのか、あるいはその人の文化に対する強い思いかもわかりません。そういう意味で、文化というのは、いろいろ文化活動をやっていると、芸能に参画する人が施設に行き踊りをすると、踊る人も健康を維持する。いろいろな意味で効果があると思う。そういうことで、いろいろ効果がある、価値があると思っておりますが、その点について、文化に1つそういうことに力を入れるのか、入れぬのか、市長、回答をお願いします。

○司会（小嶋会長）

市長、よろしく申し上げます。

○中村市長

ご質問、ありがとうございます。

まず文化についてでありますけれども、例えば今の世の中、会社員が多いですよ。そうすると、なかなか日常の生活だけで、時間に追われて精いっぱいだったりとか、子供が小さかったら子育てをやったりとかいう中で、趣味を持っていらっしゃる方もいるのでしょけれども、なかなか精神的にゆとりがない方がたくさんいるのかなという認識でいます。

そうした中で、文化面というのは、やはり情緒豊かに生活していく中では非常に重要なことですので、決してその文化を軽視するとか、そういったことは考えていません。ただ、お金のことになると、では、特定の分野につけますとか削りますとかいうのは明言できないところでもありますので、ご理解いただきたいと思っておりますけれども、

非常に大事なところであるという認識ではおりますので、よろしくお願ひいたします。

○司会（小嶋会長）

ありがとうございました。そのほか、どうでしょうか。そのピンクの女性の方。

○東幡豆町（ミウ様）

東幡豆町のミウです。よろしくお願ひします。私は動物愛護と環境保全の点について、意見を述べさせていただきたいと思ひます。

現在、NPO法人アニマルレスキューMiki Japanでボランティアを、お手伝いをさせていただいております。愛知県の登録ボランティア団体になります。主には愛知動物保護管理センターで判定落ちになった、命に期限のついた犬を主にレスキューして、ほかには、月1回のしつけ教室だとか、飼育などを啓蒙しております。1年ちょっと過ぎ、2年目になるのですが、活動をしていて、センターの収容犬情報というのがあるのですが、捕獲器が設置されて、そこに迷子の子も野犬も入ります。そうすると、1週間写真が公示されて、飼い主さん、お迎えに来てくださいという情報が出るのですが、この情報を最近毎日見ておりましたと思うことが、西尾市で保護される犬が非常に多いということです。西尾市が豊田の管轄に、本署の管轄になるのですが、見ていると、大体西尾市。ほかには幸田などが少しあるのですが、安城、刈谷、西三河地区ですね。その中でも断トツに西尾市です。1週間の拘置期限を過ぎてお迎えに来なかったワンちゃんもたくさんいます。純潔のミニチュアダックス、チワワもお迎えに来ません。その中でも、あとは野犬も多いということもあつたと思ひます。もともと飼われていた子が捨て犬になり、繁殖を繰り返して野生化してきたものです。人間の勝手に野生化した犬なのですが、こういう犬たちがセンターに収容されると、厳しい判定基準があるので、1週間の期限ではとてなれることがなくて、大抵は処分の対象になってしまうのです。センターの事業概要から、西尾市では畜犬登録されている、飼われている犬の登録数なのですが、とても多いです。世帯数で簡単に計算すると、6世帯に1頭ぐらい。多頭飼ひされているお家もあると思ひるので、もう少し多くなるかと思ひますが、こういった面から西尾市に願ひすることが2つあります。

まず1つ目は、動物愛護センター、それにかわる施設を設けてもらいたいということです。市によっては、動物愛護課なんていうのがあつたりして、飼い主にいろいろな発信をしている課もあるのですが、東日本大震災のときに、ペットの置き去りが大変問題になったのです。このことを受けて、環境省が「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン」というのをつくられたのですが、見たことはあるでしょうか。この中で、ペットの同行避難というのが推奨されています。これは「動物愛護の観点だけでなく、被災者である飼い主の避難を支援し、放浪動物による人への危害防止や生活環境保全の観点からも重要とされている」ということです。

また、こういう施設に収容される場所を設けていただいて、1週間ではなれなかった犬などを少し面倒見てもらえると、1か月、2か月ぐらいすると、犬もなれてきて家庭犬として復帰することができるようになるので、ぜひこういう施設を、場所を設けてもらいたいということ、まず1つお願ひしたいです。

2つ目。行政のほうから、もっと飼い主、市民全体への発信です。犬を飼っている人だけではなくて、飼っていない人にも意識の改革を行ってほしいということです。

先ほども言ひましたように、西尾市は犬を飼っている人が多いです。迷子にさせないだとか、行方不明になったらどこに連絡するか、飼っている人も知らないことが多くて、保健所に電話してしまう。今は、保健所ではそういうことはやっていないんだよと言われて、動物保護管理センター、それから警察署、市役所にも電話をしなければいけないということ、犬を飼っている人でも知らないということですね。

あとは、災害時に備えて同行避難をするといつたら、日ごろからのしつけがとても重要になります。熊本の震災では、この環境省が発表した後なのですが、避難所で苦情などがあつて、ペットの同行避難が大変問題になりました。

あとは、殺処分の現状を伝えていただきたい。余り命のことを言うと、みんな悲しく

なってしまうので、センターで消えようとしている命があるということ、保護犬に目を向けていただきたいということ、次の世代を担う子供たちにも、小さな命の尊さや心を伝えていってほしいと思います。

私たちボランティア団体は、みんな仕事や家庭があって、スペースの問題だとか、収容された犬を一般家庭で預かっています。私も、この1年間ぐらいで43頭ぐらい、里親が見つかるまで預かりをしました。その中に、もちろん野犬の子もいました。2週間ぐらいすると、おやつが手から食べられるようになって、散歩が一緒にできるようになったりもします。5歳の息子がサークルの中に入って、怖くないよと声をかけたりしてくれます。かみついたことは一度もありません。大体、収容されてかみついてくる子は、野犬ではなくて、人が飼っていて、しつけがうまくいっていなかったワンちゃんが多いです。そういったことも市民の方にどんどん発信をしていってほしいということが願いです。

あとは、本当に助けられなかった命を目の前にして、泣きながら帰ってきたこともたくさんありますので、ボランティアだけでは本当に限界を感じています。ぜひ行政と連携をとって、協力をしてやっていきたいことだと思っていますので、よろしくお願ひします。

○司会（小嶋会長）

環境部次長、よろしくお願ひします。

○牧環境部次長

動物愛護についてご意見をいただきまして、ありがとうございます。

1点目の動物愛護のセンターのようなものを市としてつくっていただきたいというようなご要望でございますが、なかなか管理運営から施設を建てるとするのは、すぐにここで返事ができることではないと思います。こういうご意見があったということは、今後の行政の中で十分考えていきたいと思っています。

それから、やはり一般市民の方には、犬を捨てない、それから迷子になったときの犬の場所をどういうところで確認するだとか、動物愛護センターだ、警察だ、市役所だというようなことで、そういう情報についてはすぐにでもできることですので、今後進めていきたいと、そのように考えております。

西尾市につきましては、犬を飼っている軒数も多くございます。1万頭余りおります。先ほど言われたように、捕獲の頭数も多いというのは、実績として出ている情報でございます。やはりそのあたりは、犬を捨てないということがまず大事ですし、飼育についてのPR活動については、すぐにでもできることについては対応していきたいと、そのように考えております。

○司会（小嶋会長）

どうもありがとうございます。

お時間が予定の時刻になっております。あと、お一人にさせていただきたいと思ひます。一番後ろの方。

○5番組（マノ様）

5番組のマノといいます。

2年前に、前の市長に質問させていただいたことがあったのですがけれども、一色や吉良の西部ですね、地震があり津波がきた場合の対策というのがあまり進んでいないような気がするのですがけれども、そのとき、命山というものをつくっていったらどうかという話をさせていただいたのですがけれども、その土地としては、今、飛行場が常滑にあるのですがけれども、その前に、県が買い取った土地があるというような形で話を、その当時にさせていただきました。今ですと、電気自動車の電池をつくる工場だとか、自動運転のような形の工場を誘致していただくことができればいいかなというように思ひますので、検討をよろしくお願ひします。

○司会（小嶋会長）

危機管理局長、お願いします。

○近藤危機管理局長

危機管理局長の近藤でございます。

ご意見をいただきました。2年前に既にご提案いただいているというお話でございます。命山に関しましては、今度、中村市長が、命を守る対策というのは非常に重要だということで、現在、危機管理局のほうでも前向きに検討しているところでございます。たまたま先週の金曜日、25日に、実は津波浸水避難シミュレーションということで、各自主防災会の会長を一堂に集めまして、今、現在のシミュレーションの状況をご説明いたしました。大変厳しい状況でございます、多くの方々が津波による避難を余儀なくされるという中であって、避難所となる公共施設が足りなかったりですとか、あるいは津波一時待避所ですね、そういったものも不足しているというのが明らかになってきております。

したがいまして、命を守る対策ということで、命山、あるいは津波タワーというようなこともございます。その両面に関して、今、危機管理局のほうでも市長を交えて検討に入っているところでございますので、よろしく願いいたします。

○司会（小嶋会長）

ありがとうございました。

私の進行がふつつかなために、全部の方にご発言いただけなくて、大変申し訳ありませんでした。熱心な議論をどうもありがとうございました。私の役目を終わらせていただきたいと思っております。事務局にお返しします。

○細田秘書課長

小嶋会長、ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、市長がお礼のご挨拶を申し上げます。

○中村市長

皆さん、本日は2時間近くにもわたりまして市政懇談会にご参加いただきまして、ありがとうございます。また、たくさんのご意見、ご要望をいただきまして、本当にありがとうございます。

いただいたご意見の中で、しっかりとお答えできることと、なかなかご希望に沿えないことが正直あったかと思っております。ただ、私自身は市民の皆さんに選んでいただいた市長です。市政運営をしていく中で、正直苦しいこともあるのですが、皆様方の顔を拝見すると、ほっとする部分もございます。そうした立場でありますので、皆様方とこうして顔を合わせて懇談会をさせていただく際には、自分から心の壁をつくるわけではなくて、しっかりと心を開いて皆様方のご意見を受けとめて、それをできる限り、市政運営に今後とも反映させていけるように努めてまいりますので、どうかよろしくお願いしたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

○細田秘書課長

最後に、事務局から3点ご連絡いたします。

1点目は、本日、アンケート用紙をお配りしております。今後の事務の参考とさせていただきますので、アンケートにご協力いただきまして、お帰りの際、アンケート用紙と筆記用具を、会場外のロビーの回収箱にお入れいただきますよう、お願いいたします。

2点目ですが、市では、皆様方の声を市政運営に反映させるため、「市民の声」の制度を設けております。市政に対してお気づきの点がありましたら、市民の声までご意見等をお寄せください。

3点目ですが、市では、さまざまな機会を通じて市民協働ガイドを行っております。

これは、市職員が地域に出向き、市の事業などをわかりやすい言葉でお話しさせていただくとともに、地域の声をお聞きするものでございます。詳しくは、本日お配りしました案内チラシをご覧ください、会合等の際には、ぜひご利用ください。

連絡事項は以上でございます。

それでは、これをもちまして「市長と語る市政懇談会」幡豆地区を閉会いたします。

交通安全に御ご留意いただき、お気をつけてお帰りください。

ありがとうございました。